

祝 男子バレーボール部 結成から7大会連続7回目 全国大会出場

8月12日(木)~14日(土) 平塚サンライフアリーナで開催

優勝

令和三年度 神奈川県高等学校
定時制・通信制バレーボール大会
全試合
ストレート
勝利

夕手スポ

橘高等学校定時制
運動部通信
2021.7.2
第94号

これまで全国準優勝が一回 3位が三回を誇る
橘定男子バレーボール部の
目ざすところは一つ 今年こそ **全国制覇**を!



3大会連続 男女アベックで 全国の舞台に立つ!!

全国大会まで一ヶ月余り...
チームの課題を明確にし
部員全体で共有し
さらなる高みを目指して
練習に励む!

六月二十七日(日)に川崎市立橘高等学校で開催された、令和三年度神奈川県高等学校定時制・通信制バレーボール大会「第48回全国高等学校定時制・通信制バレーボール大会神奈川県予選会」に九名の男子バレーボール部員が出場した。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全国大会への参加はなかった。今年度は卒業する田中輝玲(4年)、根岸拓也(4年)の二名にとつて、本大会で優勝という目標への思いは人一倍大きかったであろう。

全国大会の会場が神奈川県、県予選会の優勝校準優勝校の二校が全国大会への切符を手にすることができた。神奈川県の場合、ほぼ毎年男子の優勝は神奈川県立修徳高等学校と決まっております。本校はどの世代でも修徳高等学校に勝つことができません。準優勝であった。優勝カップが修徳高等学校の手から離れたことはほとんどなかった。しかし今年度は新型コロナウイルス感染症防止の観点から修徳高等学校が大会の出場を見送った。



佐藤星河(3年)

ブロックを貫く鋭いレフトからのスパイク!

修徳高等学校の大会出場辞退の知らせを聞いた部員は当初、複雑な表情を浮かべていたが、出場を辞退しなければならなかった修徳高等学校の思いも背負って神奈川県1位となり、全国大会へ出場することを目標に部員が一丸となって練習に取り組んだ。
第1試合の対戦相手はクラーク記念国際高等学校。この数年のデータでは県大会への出場がなかったため、どのようなチームであるか未知であり不安な面もあった。第1セットは、田中輝玲(4年)、根岸拓也(4年)、小倉邑翔(4年)、佐藤星河(3年)、水田堅(3年)の六人で挑んだ。今までの練習してきたことをメンバー同士で確認しあい、丁寧なバレーボールを心掛けた結果、25対10で勝利。連続10得点を決めるなど、完全に流れを橘高校に持ち込んだ。続く第2セットは小倉と酒井貴光(4年)を交替して臨んだ。相手のアタックを酒井の高いブロックで阻むなど、このセットは25対11で勝利。危な



根岸拓也(4年)



酒井貴光(4年)



田中輝玲(4年)

石村光太郎(2年)



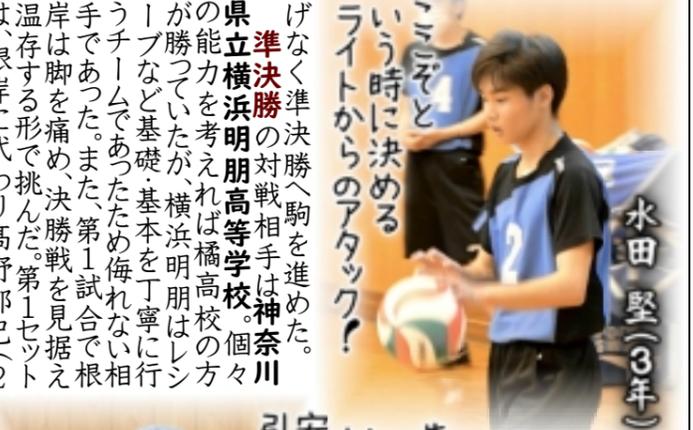
酒井貴光(4年)



小倉邑翔(4年)

決勝戦の相手は川崎市立川崎高等学校。これまで部員は、市立川崎に勝つことを目標に日々の練習に取り組んできた。第1セットは、これまでチームで練習に取り組んできたAクイックを使った。石村のAクイックの前に相手はなすすべが無い。佐藤は相手のブロックを抜く鋭いスパイクを決め、このセットは25対16で勝利した。第2セットは酒井に代わり小倉がセンターで起用された。小倉は相手の配置をよく見てピンポイントで狙い、根岸はレフトから脚の痛みを感じさせないほどの高い打点からのアタック

先輩の活躍を
目に焼きける...
いつか自分のものに!
安定したサーブで流れを引き込む!



高野郁己(2年)



橋本優太(1年)

相手のいない場所をつく
フイイント!

相手のいない場所をつく
フイイント!